

トラック輸送情報（平成22年11月分）

平成23年2月23日

国土交通省 総合政策局 情報政策本部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：中野、金子、菊池 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

調査対象26社の本月の輸送量は、5,933,150トンで、前月と比べ総輸送量が約29万トン増加したため、前月比105.2%（季節調整済み103.7%）となり、前年同月との比較では、約13万トン増加したため、前年同月比102.2%の実績であった。

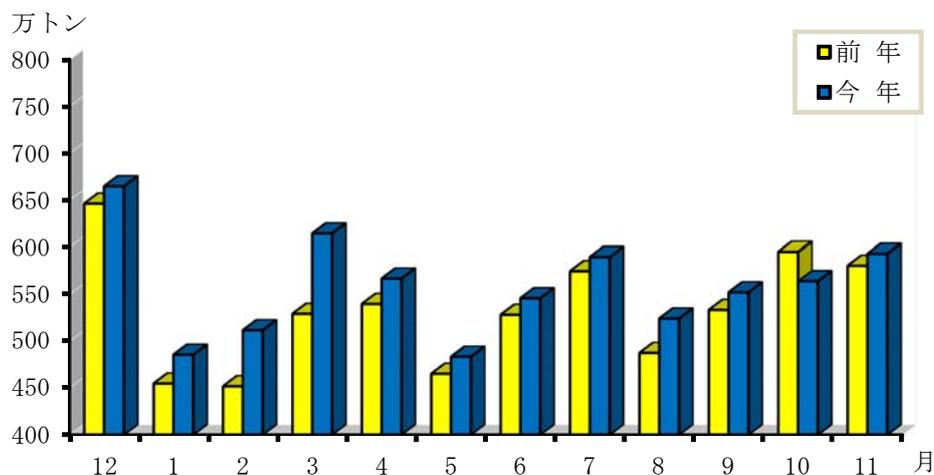
なお、平均稼働日数は23.5日で、前月と比べ0.6日減少し、前年同月との比較では、0.9日増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、252,474トンで、前月と比べ約1万8千トン増加したため、前月比107.8%となり、前年同月との比較では、約4千トン減少したため、前年同月比98.3%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

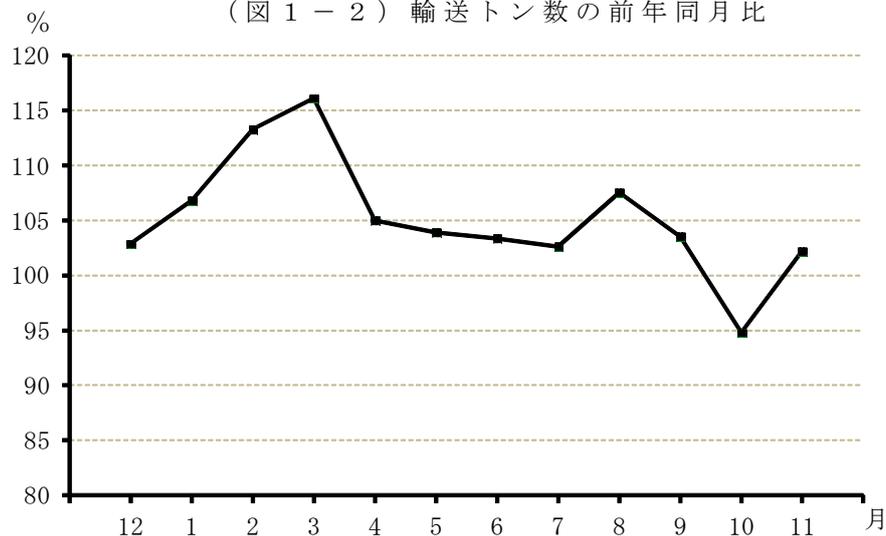
注）平成22年7月から貨物輸送の調査対象については、1社減り、26社となった。

前月比及び前年同月比は、26社ベースで比較している（図1-1及び図1-2は26社ベースで作成）。

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比



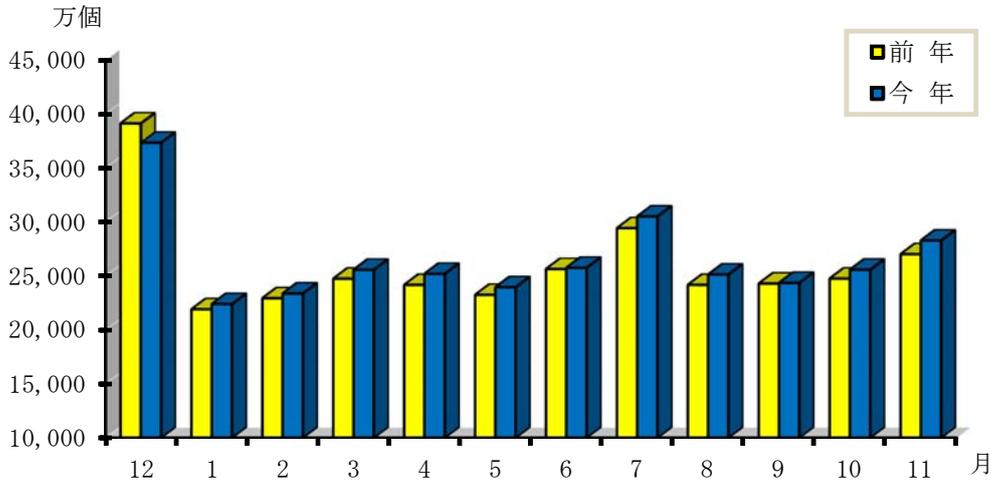
(2) 宅配便の概況

調査対象 17 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、282,964 千個で、前月と比べ 約 2,707 万個増加したため、前月比 110.6% (季節調整済み 100.6%) となり、前年同月との比較では、約 1,272 万個増加したため、前年同月比 104.7%の実績であった。

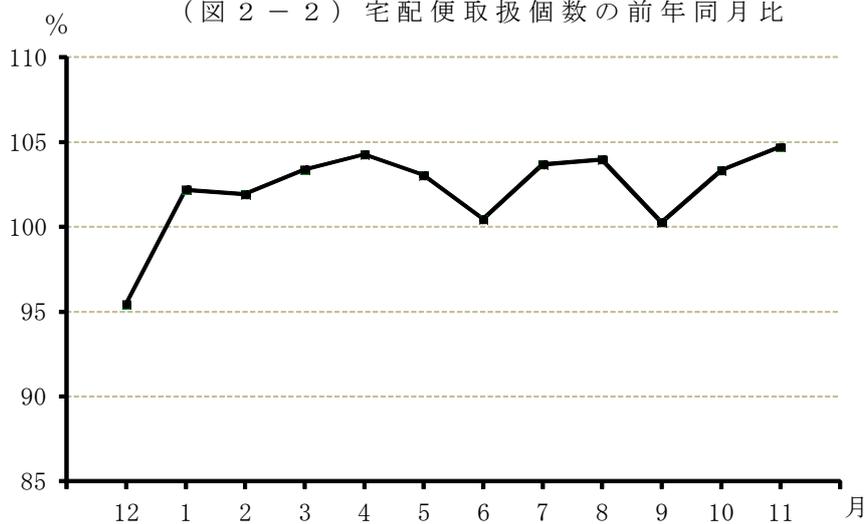
(図 2-1、図 2-2 参照)

注) 平成 22 年 7 月から宅配便輸送の調査対象については、事業承継により 1 社減り、17 社となった。

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 27 社の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、ほぼすべての品目で、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。増加要因としては、工場・生産地からの貨物増が「金属製品」、「機械」、「食料工業品」、「その他 (宅配便)」等で見られた。「機械」、「食料工業品」、「その他 (宅配便)」の主な増加地域は大阪等であった。

前年同月と比べると、ほぼすべての品目で、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。増加要因としては、工場・生産地からの貨物増及び倉庫から出る貨物増が「金属製品」、「機械」、「化学工業品」、「食料工業品」等で見られた。「金属製品」、「機械」、「化学工業品」、「食料工業品」の主な増加地域は、東京、北陸信越、愛知、大阪、近畿等であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 27社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因	
	著増	増	変らず	減				
前月に比べて	農水産品	1	2	12	1	2		
	金属製品		4	17			4	
	機械	1	8	11	1		電気機械、機械部品 関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7
	化学工業品		4	18				
	繊維工業品		2	20				
	食料工業品	1	7	11	1		製造食品 東京、関東、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7
	日用品		6	14	2		その他の日用品 神奈川	
	その他	1	6	13	1	1	宅配便 神奈川、大阪、全国	2, 4, 8
前年同月に比べて	農水産品		3	13	2			
	金属製品		9	11	1		その他の金属製品 東京、神奈川、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7
	機械	1	5	14	1		電気機械、機械部品 東京、関東、北陸信越、愛知、大阪、近畿	4, 7
	化学工業品		9	13			その他の化学工業品 関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7
	繊維工業品		6	16			その他の繊維工業品 関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	食料工業品		6	12	2		製造食品 東京、関東、北陸信越、愛知、大阪、近畿	4, 7
	日用品	1	5	13	2	1	その他の日用品 神奈川、北陸信越、愛知、近畿	7
	その他	3	5	11	1	2	神奈川、大阪、全国	2, 4

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 778 社／調査対象事業者数 1,089 社）の輸送量は、前月比 102.1%、前年同月比 103.3%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前 月 比	102.1 %	101.7 %	100.4 %	99.2 %	102.2 %	105.4 %	100.5 %	103.1 %	106.1 %	103.0 %	97.3 %	
前年同月比	103.3 %	100.4 %	104.1 %	102.8 %	103.7 %	103.4 %	104.4 %	106.6 %	104.4 %	104.9 %	108.2 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比 101.7%、対前年同月比 100.4%であった。品目別には、季節的需要増等により「その他の石油製品」等が、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」等が、それぞれ増加したと回答する事業者が多かった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「その他の農産品」、「動植物性飼・肥料」等が、建設関連の需要減等により「木材」、「鉄鋼」等が、それぞれ減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 100.4%、対前年同月比 104.1%であった。品目別には、季節的需要増等により「日用品」、「その他の製造工業品」等が増加したと回答する事業者が多かった。一方、季節的需要減等により「穀物」、「野菜・果物」等が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 99.2%、対前年同月比 102.8%であった。品目別には、季節的需要増等により「揮発油」が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「紙・パルプ」が、不況の影響等により「機械」等が、それぞれ減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、対前月比 102.2%、対前年同月比 103.7%であった。品目別には、季節的需要増等により「揮発油」、「その他の石油製品」、「動植物性飼・肥料」等が増加したと回答する事業者が多かった。一方、季節的需要減等により「穀物」等が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 105.4%、対前年同月比 103.4%であった。品目別には、景気回復の兆しにより「セメント」が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「機械」、「紙・パルプ」が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比 100.5%、対前年同月比 104.4%であった。品目別には、季節的需要増等により「日用品」等が増加したと回答する事業者が多かった。一方、デパート・スーパーの貨物減等により「食料工業品」が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 103.1%、対前年同月比 106.6%であった。品目別には、景気回復の兆し等により「砂利・砂・石材」、「機械」等が増加したと回答する事業者が多かった。一方、建設関連の需要減等により「鉄鋼」等が、工場・生産地からの貨物減等により「その他の化学工業品」等が、それぞれ減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばいと予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 106.1%、対前年同月比 104.4%であった。品目別には、季節的需要増により「野菜・果物」等が増加したと回答する事業者が多かった。一方、季節的需要減により「輸送用容器」が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降は減少傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 103.0%、対前年同月比 104.9%であった。品目別には、季節的需要増等により「穀物」、「野菜・果物」、「その他の農産品」等が、建設関連の需要増等により「木材」等が、それぞれ増加したと回答する事業者が多かった。一方、不況の影響等により「セメント」が、口蹄疫の影響等により「動植物性飼・肥料」が、それぞれ減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降は減少傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比 97.3%、対前年同月比 108.2%であった。品目別には、輸出入の貨物増により「金属くず」、「その他のくずもの」が、季節的需要増により「穀物」、「野菜・果物」、「その他の農産品」等が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「水産品」、「機械」が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		海	道	北	東	陸	信	部	畿	国	国	州	縄	計
1. 穀物	増	1	1									4	1	7
	減	1	7			2			1			2		13
2. 野菜・果物	増	2				1			1		2	5	1	12
	減	4	3			1						3		11
3. その他の農産品	増	2									1	3	1	7
	減	10								1				11
4. 畜産品	増		1			1						1		3
	減	1								1				2
5. 水産品	増	1				2						1		4
	減	3	2			1						1	1	8
6. 木材	増	1	2					1			1	2	1	8
	減	4	1			1							1	7
7. 薪炭	増													
	減													
8. 石炭	増	2												2
	減		1											1
9. 金属鉱物	増					1								1
	減											1		1
10. 砂利・砂・石材	増	10	1			1				5		4		21
	減	3								1		4		8
11. 工業用非金属鉱物	増	1	2					1						4
	減											1		1
12. 鉄鋼	増	1	1	1		3			1	1	1	1	1	11
	減	3								2	1			6
13. 非鉄金属	増									1		1		2
	減													
14. 金属製品	増					2			2	3	1	1	1	10
	減		2						2	2		1		7
15. 機械	増	1	2			3				4	1	4		15
	減				1	2	2	1		1	1	2	1	11
16. セメント	増	2	1			1	1			2		3		10
	減	4	1			1				1		4		11
17. その他の窯業品	増	1	1	1						1		1		5
	減								1					1

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増		4	2	3				1			10
	減											
19.その他の石油製品	増	5			3					2		10
	減											
20.コークス・ その他の石炭製品	増											
	減				1							1
21.化 学 薬 品	増	1	2		1		1					5
	減		1									1
22.化 学 肥 料	増	2	1									3
	減				1		1	1				3
23.その他の化学工業品	増						1	1				2
	減		1			1		2				4
24.紙 ・ パ ル プ	増	1	1		1		3					6
	減	1	1	1		1	1		1		1	7
25.織 維 工 業 品	増				1				1			2
	減									1		1
26.食 料 工 業 品	増		3	2	2		1	1	1	3	1	14
	減	2	3	2	2		3	1	1	4		18
27.日 用 品	増	1	4	1	1	2	3	3		1	1	17
	減							2		2		4
28.その他の製造工業品	増	1	4	2		1		3		5		16
	減		2	1	1			2		1		7
29.金 属 く ず	増				1						1	2
	減											
30.その他のくずもの	増									1	1	2
	減											
31.動植物性飼・肥料	増	1	1	1	3					1		7
	減	4		1			1			2	1	9
32.廃 棄 物	増		1						1			2
	減		1							1		2
33.輸 送 用 容 器	増	1			1			1		1		4
	減								1			1
34.取 り 合 せ 品	増			1				2				3
	減		1			1		1			1	4
35.そ の 他	増	1		2		1	3	4		4		15
	減			3			1	1				5